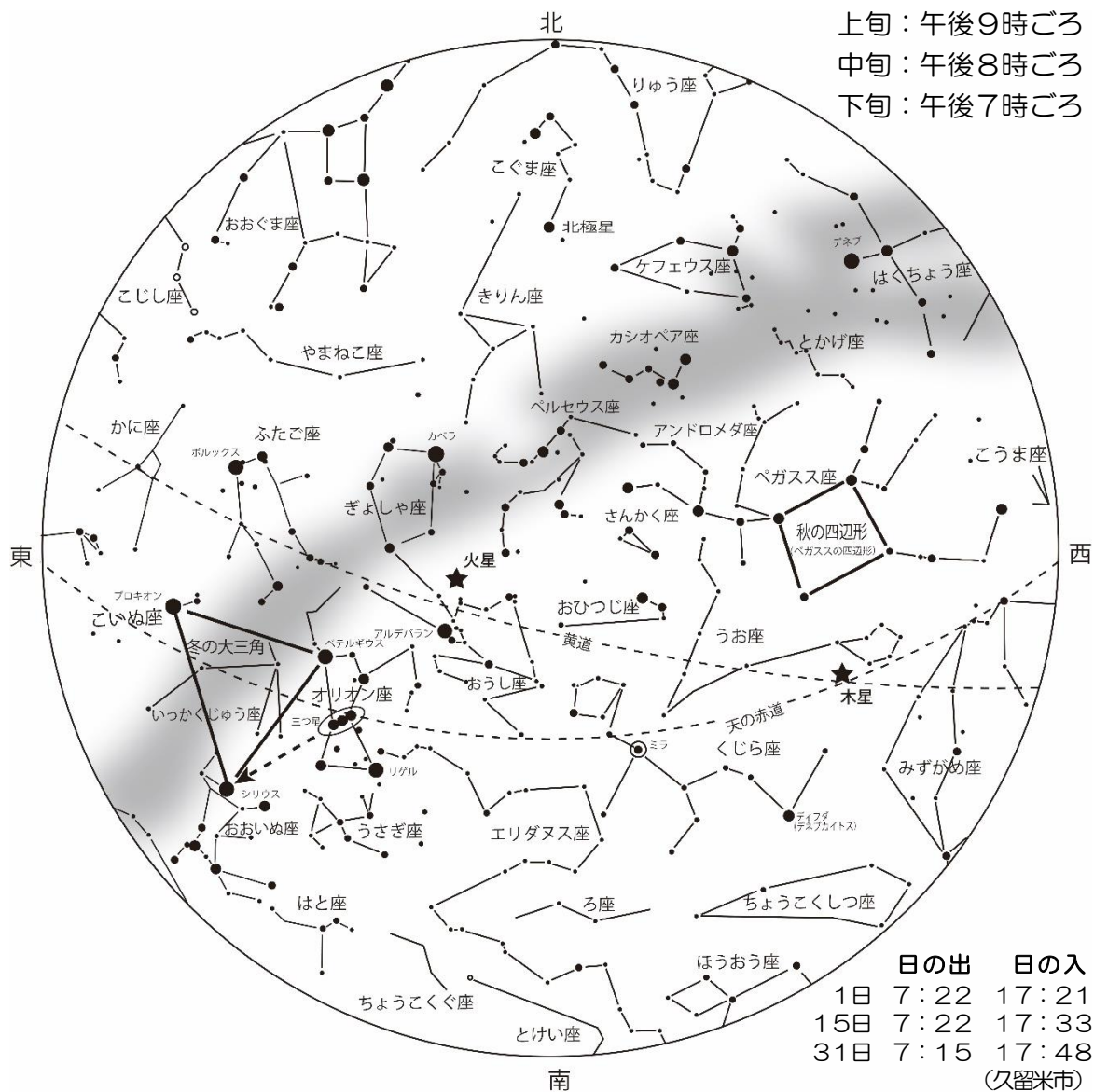


# 令和5年 1月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～

上旬：午後9時ごろ  
中旬：午後8時ごろ  
下旬：午後7時ごろ



## ★1月の星空案内

新しい年を迎え、新たに何か挑戦するには良い時期です。今年は、夜空を見上げ星や星座を探すことに挑戦してみても、いかがでしょうか？この時期は、冬の星や星座たちが見やすくなっています。冬の星や星座探しは、南東の空で見つけることができる等間隔に並んだ3つの星“三つ星”と、それを取り囲む明るい4つの星がつくる砂時計のような星の並びからスタートです。この砂時計のような星の並びを目印に見つけることができる星座がオリオン座です。“三つ星”の左上で輝く星は1等星のベテルギウス、右下で輝く星は1等星のリゲルです。そして、“三つ星”を南東（左下）にのばしていくと見つかる星が、1等星のシリウス。シリウスは全天で最も明るい恒星です。このシリウスを目印に見つけることができる星座がおおいぬ座です。次に、シリウスから北東（左上）に目線に移すと1等星のプロキオンを見つけることができます。このプロキオンを目印に見つけることができる星座がこいぬ座です。オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンを結んでできる三角形は『冬の大三角』と呼ばれ、実際の夜空で目を引きます。

冬の夜空では、その他にも多くの1等星が輝いており、星や星座を探しやすい季節になります。ぜひ、この季節から星や星座探しに挑戦してみてください。

### 【見ごろの惑星】 (☆マークは、今月のおすすめです。)

- ☆水星(1.4等前後):いて座付近 日の入り後、南西の低空で輝く。(上旬)
- ☆金星(-3.9等前後):いて座→みずがめ座付近 日の入り後、西南西の低空でひととき明るく輝く。
- ☆火星(-0.8等前後):おうし座付近 20時頃、南の空で赤っぽく輝く。
- ☆木星(-2.3等前後):うお座付近 20時頃、南西の空で明るく輝く。
- ☆土星(0.9等前後):やぎ座付近 日の入り後、西南西の低空で輝く。

### 2023年 注目の天文現象(まとめ)

- 1月 1日:水星、金星、土星、木星、火星、月が一字に並ぶ
- 1月 4日:しぶんぎ座流星群が極大(12時頃、見ごろは4日の未明、条件悪)
- 1月22、23日:土星と金星が大接近(両日ともに夕方)
- 3月 2日:金星と木星が大接近(14時頃、見ごろは2日の夕方)
- 3月24日:金星食(21時頃、九州南部から南西諸島のみ)
- 4月20日:部分日食(14時頃、九州・四国・本州の南部のみ)
- 6月22日:金星と火星、月が集合(見ごろは20時頃)
- 8月13日:ペルセウス座流星群が極大(17時頃、見ごろは13日の夜明け頃:条件良)
- 9月29日:中秋の名月
- 10月29日:部分月食(食の始まり4:35、食の最大5:14、食の終わり:5:53)
- 12月15日:ふたご座流星群が極大(4時頃、見ごろは14日の夜遅く:条件最良)

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
4	水	しぶんぎ座流星群が極大(13時頃) 【条件悪】	22	日	● 新月 (05:53)
7	土	○ 満月 (08:08)	29	日	◐ 上弦 (00:19)
15	日	◑ 下弦 (11:10)	30	月	水星が西方最大離角